

学校名	熊谷市立妻沼西中学校
所在地	埼玉県熊谷市弥藤吾 2 3 5 9 - 2
電話	0 4 8 - 5 8 8 - 1 3 6 1

1 本校の概要

妻沼には国宝である「妻沼聖天山歓喜院」を含め、歴史ある建築物が数々残されている。その中でも現在の熊谷教育の原点ともいべき幡羅高等小学校の「家庭心得」が残る観清寺が学区内にある。

生徒は礼儀正しく、あいさつもしっかりとし、時間を意識して行動することができる。学業や部活動など何事にも真剣に取り組み、一生懸命である。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・読書活動の充実

(2) 実践の概要

本に親しむために身近なところから読書活動を発信する。

ア 朝読書の時間の設定

朝読書の 10 分間は、学校中が静寂に包まれ、全校生徒と先生方が一斉に読書に取り組んでいる。学校の伝統として続いている。



イ 学級文庫の活用

各クラスに 30 冊入った学級文庫を設置。図書の設定は、図書館補助員が行っており、本屋大賞作品や、直木賞作品などが含まれている。話題になっている本を学校内で読むことができ、借りることもできるので生徒たちは学級文庫をよく利用している。読む本の種類を増やすため、前・後期で本のローテーションを行っている。また、本の管理は貸出ノートを作り、図書委員が主体的に活動している。



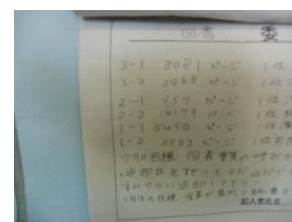
ウ 学年・教科との連携

- ・国語科 学校図書館にある本の中からお薦めする本を見付け掲示物を作成した。
- ・学年委員会 「本からの気づき紹介」と題し、学年のリーダーたちが本の中から心に残る言葉を書き出し、掲示物を作成した。



エ 図書委員会の活動

梅雨の時期に「落ち着いた生活をしよう」という学校の目標にあわせ図書委員会では「一か月間に読む本のページ数を増やそう」という目標をたてた。各クラスの図書委員がクラスに呼びかけ、全員の読書量を調べた。各クラスの結果を昼の放送で発表し、生徒たちの意識を高めた。



3 成果と今後の課題

(1) 成果

ア 朝読書の実施により、生徒たちが登校後始業のチャイム前に着席をし、落ち着いた状態で一日を始めることができている。

イ 教科や学年との連携により、本を選ぶ視点がわかりやすくなった。そのため、どのような本を選べばいいのかわからないという生徒が少なくなり、学校全体としての読書量が増えた。

(2) 課題

ア 図書館補助員と教職員の連携を深めていきたい。
イ 学校図書館にある本を紹介する機会を増やし、生徒たちにとって魅力ある学校図書館づくりをしていきたい。

(3) おわりに

読書活動を充実させることによって、生徒たちが読書の楽しさを味わえる手助けになるようにしていきたい。